

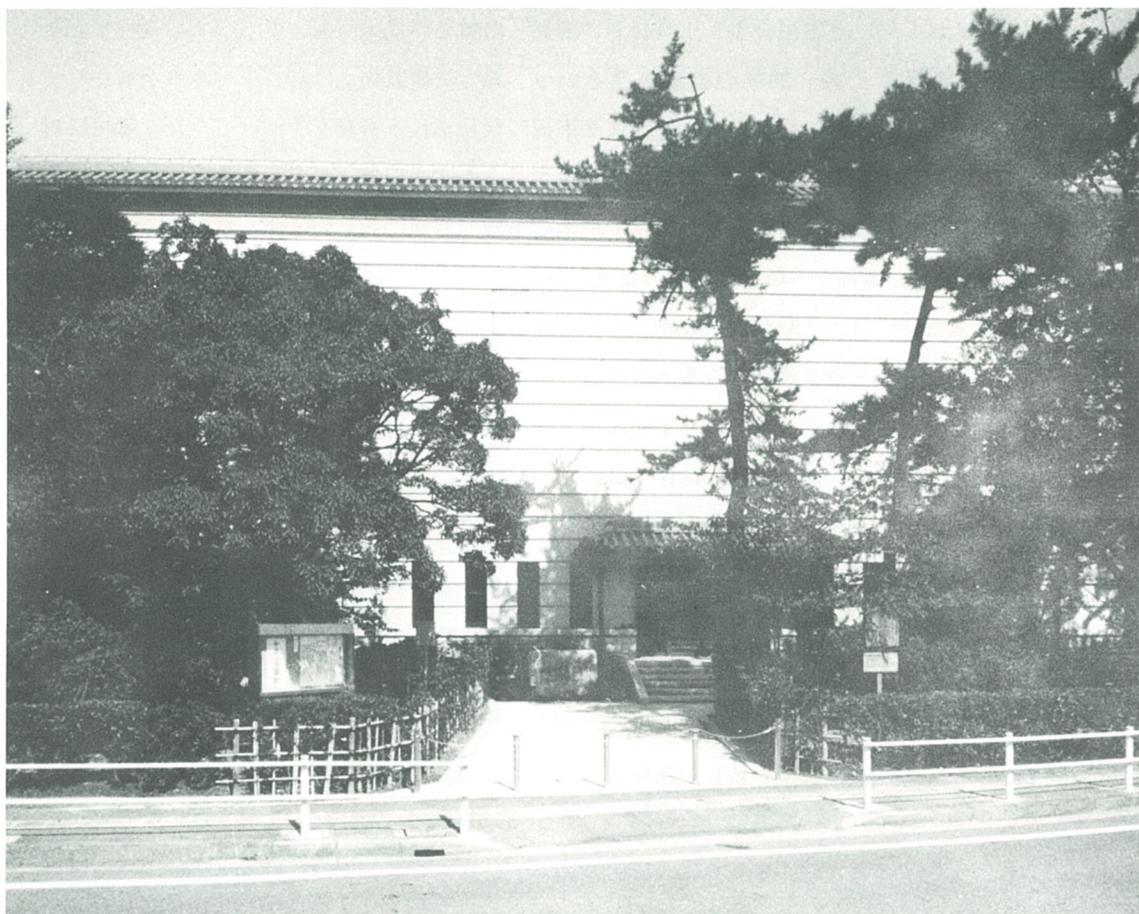


ほうさ 第15号

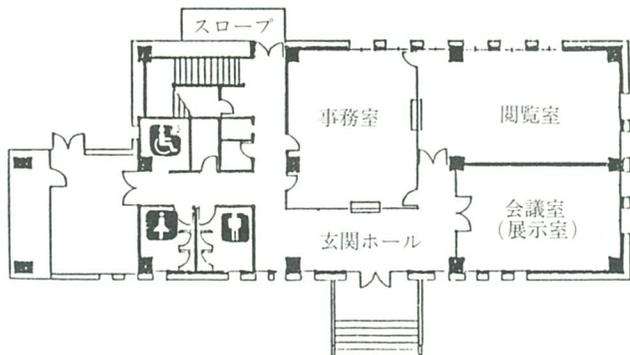
1983年10月

名古屋市蓬左文庫

Nagoyashi Hōsabunko



▲蓬左文庫 新館



(1階平面図)

昭和57年9月30日完成
昭和58年10月1日開館
鉄筋コンクリート3階建
(床面積303㎡のべ898㎡)
1階…閲覧室・会議室・事務室
2・3階…書庫

新館の開館にあたって

蓬左文庫は、旧尾州藩の「御文庫」として藩政時代から明治維新、そして大正・昭和と受けつがれてきた由緒ある文化遺産である。戦後まもない昭和25年、名古屋市が所管するところとなり、今年で33年の年月が経過した。市に移管された文庫は、徳川家ゆかりの現在地に置かれ、翌26年秋より一般に公開されて今日に至っている。この間、貴重な文化財の保存という使命はもちろんのこと、これを広く活用される方向で努力されてきた。それは一部研究者の利用という域を出て、新しい時代の中における史料の活用をはかってきた。文庫の図書目録の作成出版をはじめ、市制70周年記念として尾張関係の史料を集大成した「名古屋叢書」正統48巻の編集・出版という大事業、さらに文庫市移管30年記念として「名古屋叢書三編」20巻の編集事業という、地方史研究の上に刮目すべき事業をなしてきた。また文庫所管の古地図の複製出版など、広く市民に親しまれる事業を手がけてきた。歴史に対する一般の方々の関心も高まるなかで、出版界や放送界からの文庫資料に対する活用度も増加し、従来の施設では対応しきれない段階にきた。そこで旧来の施設の西側に新しい文庫を建設することになり、3階建、延900㎡、面目を一新した新館の完成をみた。

新館の完成にあたり、改めて昭和24、5年、市移管をめぐる当時の市会などの記録を調べてみると、戦災によって焦土と化した名古屋市にとって、住宅建設など復興に苦しい財政下にあって、あえて移管に伴う財政上の負担を覚悟の上で決断された、ときの塚本市長をはじめ、市幹部の英断というか、行政家としての先見性にいまさらながら頭のさがる思いがする。今日でこそ歴史遺産とか歴史ブームとか市民文化などが問題視されるが、当時は文化よりは衣食住が問題であり、書籍よりはパンが必要な時代であった。この度、文庫の新しい開館にあたって、改めて先人のご苦勞のあとを記し感謝の意を表したい。



新館書庫（和装本用）内部

市民の貴重な文化遺産として、8万点にのぼる書籍と、これを収める文庫は建設された。文化財を保管し、維持することは文庫のもつ重要な使命の一つであるが、これを今後どう活用されるかが、これからの課題である。名古屋は文化不毛とか、文化不在とかいわれることがあるが、私ども当事者からみれば、市内には当蓬左文庫をはじめ数々の由緒ある文化財が保存されており、それを生み、育ててきた歴史がある。古きよき伝統がある。問題はむしろ、それら歴史ある伝統の中から新しいものを創造していく姿勢が問われなければならないと考える。文化不毛といわれるのは、一部の心ない人々による発言であり、名古屋には名古屋らしい文化が存在しており、今後はむしろ市民サイドの活用の姿勢こそ望まれると考えている。

蓬左文庫長 久住典夫

—新館開館記念—

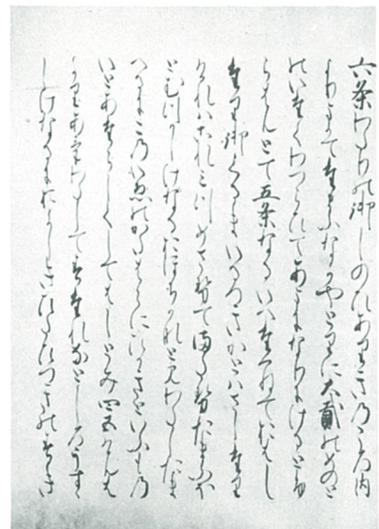
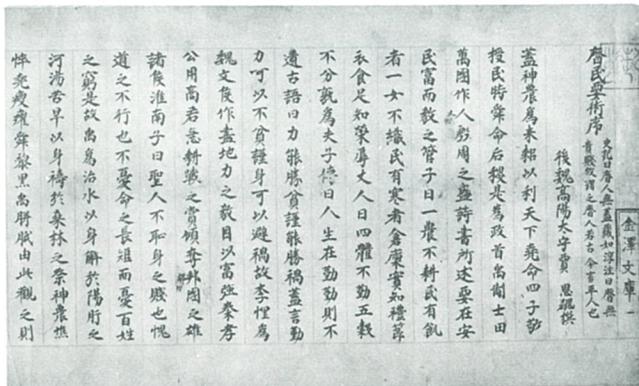
蓬左文庫名品展

10.1(土)~11.27(日)

蓬左文庫が名古屋市有となり、昭和25年9月、東京からふるさとの名古屋にもどって以来、満33年になります。当初の蔵書数は約6万5千点でしたが、その後の購入分や諸方からの寄贈分を合わせ、現在数は8万点を超えるに至りました。しかし、基礎となるものは、やはり、徳川家康旧蔵の「駿河御讓本」で、そのなかには数種の金沢文庫本をふくみ、それらの多くは重要文化財の指定を受けています。

家康の学問への開眼は、今川家の人質時代に、義元の政治および軍事顧問として活躍した臨濟宗の高僧太原崇孚(雪斎)から教えをうけたのに始まりますが、戦国の世も終ろうとする天正の末ごろからにわかに文教への関心を高め、近世儒学の祖といわれる藤原惺窩に師事し、学者の登用、書籍の収集や印刷、文庫の設立ないし修復などに力を注いだことは歴史に明らかどころです。その晩年に成った駿河文庫は、質・量ともに当時最高と考えられますが、家康の死後、一部を除いていわゆるご三家に分譲され、中でも、今日、ほぼ原状を保っているのは、尾張家の分、すなわち現蓬左文庫の御讓本だけといわれており、これが本文庫の大きな特色となっています。また、御讓本をふくむ和書・漢籍・朝鮮本などの古写もしくは古版本のほか、尾張史料・蘭書・古絵図など、蔵書の種類がきわめて多く、内容・形式ともにたいへんバラエティに富み、「本の博物館」としての実質をそなえていることも特色といえます。

このたびの展示は、新館開館を記念する総合展として、重要文化財を中心に各分野の代表的な資料を出陳いたしました。会場の設備がなお十分でないため、50種に制限され、すべてをそろえるまでには至りませんでした。今後はその整備・充実を期し、一定のテーマにもとづく各種の部門展を企画しています。なお、展示の序列は、和書・漢籍(朝鮮本共)・尾張史料・蘭書・古絵図の順とし、各分野では成立の年代に従いました。



◀源氏物語(重文)

◀齊民要術(重文)

「蓬左文庫名品展」出品目録

〈重要文化財〉

1. 続日本紀 菅野真道等編 鎌倉時代写(巻1~10慶長19年補写) 金沢文庫本 駿河御譲本 40巻40軸
2. 侍中群要 橘 広相著 嘉元4年(1306)写
北条貞顕筆 金沢文庫本 駿河御譲本 10巻10軸
3. 源氏物語 河内本 鎌倉時代写 正嘉2年(1258)
北条実時奥書 金沢文庫本 54巻23冊
4. 論語集解 (魏)何晏編 元応2年(1320)写 10巻10冊
5. 齊民要術 (後魏)賈思勰撰 文永11年(1274)北条実時奥書 金沢文庫本 駿河御譲本 10巻(巻3欠)22軸
6. 太平聖恵方 (宋)王懷隱等撰 宋刊(慶長中補写あり)
金沢文庫本 駿河御譲本 100巻目1巻51冊
7. 高麗史節要 (朝鮮)金宗瑞等撰
(朝鮮)景泰4年(1453)刊 古活字本 35巻35冊

〈和書〉

8. 日本書紀 神代巻 舎人親王等編 慶長14年(1609)写 卜部兼見奥書 駿河御譲本 2巻2冊
9. 出雲国風土記 江戸時代初期写
外題 徳川義直筆 1冊
10. 万葉集 江戸時代初期写 平仮名本 20巻20冊
11. 菅家文草 菅原道真著 江戸時代初期写 12巻5冊
12. 土佐日記 紀 貫之著 江戸時代初期写 1冊
13. 竹取物語 室町時代末期頃写 1冊
14. 源氏物語 青表紙本 室町時代写
伝貞敦親王等筆 54巻54冊
15. 大鏡(世継) 室町時代写 3巻3冊
16. 三十六人家集 江戸時代初期写 36巻36冊
17. 方丈記 鴨 長明著 慶長中刊 古活字本
駿河御譲本 1冊
18. 東鏡 江戸時代初期写 69冊
19. 保元平治物語 慶長年間写 駿河御譲本 5冊
20. 源平盛衰記 慶長16年(1611)写 48巻48冊
21. 増鏡 応永9年(1402)写 3冊
22. 夫木和歌抄 藤原長清編 江戸時代初期写 37巻37冊
23. つれづれ草 吉田(卜部)兼好著
江戸時代初期写 奈良絵本 6冊
24. 倭紫田舎源氏 柳亭種彦作 国貞画
文政11~天保13年(1828~42)刊 38編19冊
25. 犬の草紙 笠亭仙果作 豊国等画
弘化4~明治2年(1847~69)刊 52編26冊

〈漢籍〉

26. 周易 巻7~11 (晋)韓康伯注
永徳4年(1384)写 駿河御譲本 5巻2冊
27. 孫武子兵法 (明)鄭靈注 明刊(嘉靖年間)
駿河御譲本 2巻1冊
28. 歴代君臣図像 (明)周進隆撰
(朝鮮)李朝初期刊 陰刻本 2巻2冊

29. 群書治要 (唐)魏徵撰 元和2年(1616)刊 駿河版
駿河御譲本 50巻(3巻欠)47冊
30. 李太白詩 (唐)李白撰 (宋)楊齊賢等注
(朝鮮)李朝初期刊 古活字版
駿河御譲本 25巻文集1巻15冊
31. 杜工部詩 (唐)杜甫撰 (宋)徐居仁等編
永和2年(1376)刊 五山版 駿河御譲本 25巻13冊
32. 白氏文集 (唐)白居易撰 元和年間刊 古活字版
細井平洲旧蔵 71巻18冊
33. 三国志演義 (明)羅本撰 (明)万曆19年(1591)刊
駿河御譲本 12巻6冊
34. 剪燈新話句解 (明)瞿佑撰 (朝鮮)垂胡子注
(朝鮮)李朝初期刊 駿河御譲本 2巻2冊
35. 三国遺事 (高麗)釈一然撰
(朝鮮)正徳7年(1512)刊 駿河御譲本 5巻2冊
36. 楽学軌範 (朝鮮)成倪等撰 (朝鮮)李朝初期刊
駿河御譲本 9巻3冊

〈尾張史料〉

37. 神祇宝典 徳川義直著 正保3年(1646)写
原本 9巻付図1巻10冊
38. 張州府志 松平君山等編 江戸時代中期写
原本 30巻付図1巻26冊
39. 張州雜志 内藤東甫著 江戸時代中期写 自筆本 100冊
40. 尾張志 深田正韶(香実)等編 天保15年(1844)写
原本 61巻61冊付図14枚
41. 金城温古録 奥村徳(得)義著 江戸時代末期写
原本 65巻付1巻66冊
42. 熱田祭奠年中行事図会 江戸時代末期写 原本 10冊
43. 本草會物品目録 菅百社編 天保6年(1835)刊
筆叢献上本 1冊

〈蘭学資料〉

44. 解体新書 杉田玄白等訳 安永3年(1774)刊
4巻・図1巻5冊
45. 日本文典 原題;Proeve eener Japansche Spraakkunst
ドンゲル・クルティウス著 1857年刊 ライデン版
尾張洋学館旧蔵 1冊
46. 映画鏡論 柳河春三訳著 元治元年(1864)写
自筆本 序目1冊

〈朝鮮通交関係資料〉

47. 朝鮮国三使口占聯句 天和2年(1682)写 原本 2通
48. 朝鮮人物旗仗轎輿之図 文化8年(1811)写 猪飼正毅筆 1軸

〈古地図〉

49. 尾府名古屋図 宝永6年(1709)頃写 1軸
〔49' 名古屋図 享保18年(1733)頃写 1軸〕
50. 新板撰津大坂東西南北町嶋之図
明暦元年(1655)刊 1枚

「山谷黄先生大全詩註」(栗田文庫蔵)

本文庫に伝わる駿河御讓本が、明治5年の「御書籍御払」により、遺憾ながらその約三分の一(百数十部)を散逸した事情はすでに紹介した(蓬左第10・11号)が、この散逸した文庫田蔵書の所在を確認し、できうる限り収集に努めることを目標に、今まで調査を重ねた結果、約三十部についてはその所在を確認し、しかも、その内「源平盛衰記」「陸象山全集」の二部は買い戻すことができた。今後は、さらに散逸本の調査を進めると同時に、所在のつかめた本については、この欄で紹介してゆこうと思う。すでに、国会図書館に収蔵されていた十七部については、紹介が済んでいる(蓬左第10号)ので、今回は栗田文庫(故栗田元次氏の収集にかかる蔵書群で、「百万塔陀羅尼」をはじめとして、貴重な古写本・古刊本に富む。広島で戦災に会い、その大半を焼失したとはいうものの、現在でもなお、好書善本の宝庫である)に所蔵される「山谷黄先生大全詩註」をとりあげる。本書は栗田文庫を受け継いでおられる栗田憲次氏(名古屋市昭和区)のご高配により調査の機会を得、さらに、最近マイクロフィルム化して本文庫の資料として加えることをお許しいただいたものである。

山谷黄先生大全詩註(内題) 9巻(全20巻の内、巻6~11、18~20を残す端本) 3冊
 外題「黄山谷詩註」 室町初期刊〔五山版〕
 寸法 タテ27.0×ヨコ18.5cm 四周単辺(一部左右双辺) 有界 11行20字(半葉)
 全160丁 線装本 白茶色無地紙表紙 虫損あり(裏打修理済) 朱・墨書入あり。
 巻11欄外に小さく「宗」(白文)とあり、刻工名か。 巻10第9葉に補筆あり。
 印記 「□〔斎カ?〕村」 「御本」(甲) 「栗田氏珍藏之記」

本書は、中国宋代の詩人、黄山谷(庭堅。1045-1105。蘇東坡門の四学士のひとり)で江西詩派の祖。北宋の四大家の内)の詩集に注釈がほどこされたもので、残念ながら9巻を残すのみの端本ではあるが、「御本」印を有すること、および本文庫に伝わる各種の「御書籍目録」からみて、明治5年に払い出された駿河御讓本にまちがいない。ちなみに、元和3年(1617)の目録整理番号<148-23>には「山谷 八冊」とあり、それ以後のものでも冊数は同じであるから、もともとは完本として尾張藩文庫に伝わったが、払い出しの時点か、それ以後に、何らかの事情により3冊だけが栗田文庫に入ったものと思われる。虫損がかなりひどく、栗田元次氏によれば、「虫損甚しきを今補修す。虫損が私の原因なりしならん」(『栗田文庫善本書目』)とあるが、私の原因については、むしろ逆の場合の方が多いようである。



「山谷黄先生大全詩註」
 巻6巻頭(栗田文庫蔵)

いずれにしても、元次氏によって補修が行われたことは、本書にとって幸いであった。次に版式についてであるが、これを宋(あるいは元)版とみるか、朝鮮版とみるか、あるいは日本で刊行された五山版の一種とみるか、判断のむづかしいところであるが、「宗」という刻工名とおぼしきものが見られる点、および諸伝本の比較検討(川瀬一馬氏『五山版の研究』)の成果から、室町初期の五山版(覆宋刊本)とみるのが、もっとも妥当であると思われる。なお、参考までに尾張藩書物奉行の見解を紹介すると、彼らも本書の扱いには手を焼いたと見え、安永9年(1780)・天明2年(1782)の目録<148-46、148-31>には、「唐本」とあるのに、寛政8年(1796)の目録<148-30>では「朝鮮板」と変わり、蔵書目録のうちでは記述の最も詳しい天保7年(1838)の目録<148-28>では、「此御本安永天明御目録ニハ唐本ト有之候得共朝鮮板ニ而御座候」と、訂正の旨をこたわっている。訂正の根拠が述べられていないのが、残念である。なお、本書の他に、本文庫には室町時代の古写本「山谷詩集註」20巻20冊もあって、同じく駿河御讓本として伝わっているのので、付け加えておく。(山本)

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	蓬左文庫所蔵古地図複製(S.55~57年刊)	
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	No.1~No.11	各 1,800円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一~三集		同 第8巻(S.57年刊)	3,000円
(S.52~55年刊)	各 1,500円	同 第16巻(同)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	同 第19巻(同)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	同 第17巻(S.58年刊)	
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円	一横井也有全集 中一	3,000円
善本解題図録第一~三集(S.55年再版)	各 300円	堀田文庫蔵書目録(同)	500円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S.52年刊)	200円	蓬左文庫図録(同)	1,500円
蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円	蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

★「名古屋叢書三編」(20巻・付1巻)の第1~5回配本を頒布中です。次回配本(第4巻、士林派廻統編)は、現在印刷中ですので、もうしばらくお待ち下さい。

★昨年、受贈いたしました「蟹江慶次郎田蔵書」の分類目録を、来年中に刊行する予定です。

▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

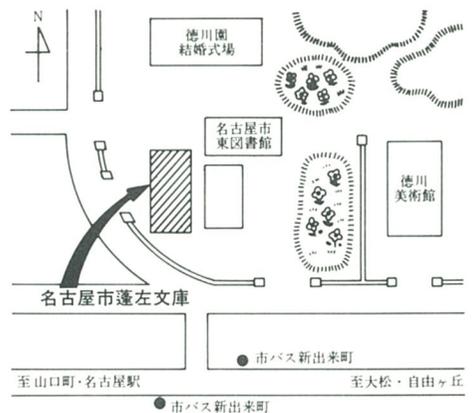
- ▷開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 " " 月・火休館
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第15号 ☆昭和58年10月1日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷(東区泉2-3-18)